

令 和 4 年 度 第 2 回 上 伊 那 医 療 圏 議 地 域 医 療 構 想 調 整 会	資 料 1
令 和 5 年 2 月 1 3 日	

地域医療構想に関する将来意向調査の結果等について

地域医療構想に関する将来意向調査の概要

- 各医療機関の対応方針の策定や検証・見直しに向けた議論等を進めるため、県内の一般・療養病床を持つ公立・公的・民間病院及び診療所を対象に、「地域医療構想に関する将来意向調査」を実施。
- 今回の調整会議では、様式1の集計結果の概要を中心に説明させていただきます。(様式2の集計結果の概要については、令和5年度第1回調整会議で説明させていただく予定です。)

■ 調査期間

令和4年12月2日(金) ~ 令和5年1月13日(金)

■ 調査項目

【様式1】

1. 自院の現状

- (1) 許可病床数(令和4年7月1日時点)
- (2) 医師・看護職員の職員数(令和4年7月1日時点)
- (3) 診療科目(令和4年7月1日時点)
- (4) 入院基本料の届出状況(令和4年7月1日時点)
- (5) 自院の特徴と課題

2. 今後の方針

- (1) 自院の今後の方針(今後の圏域における役割、具体的な今後の方針)
- (2) これまでの調整会議に提出した2025年における対応方針の変更意向の有無
- (3) これまでの調整会議に提出した2025年における対応方針を変更する(しない)理由
- (4) 2025年・2030年における許可病床数の予定
- (5) 2030年における対応方針について
- (6) 地域(圏域)の課題と将来あるべき姿について

【様式2】

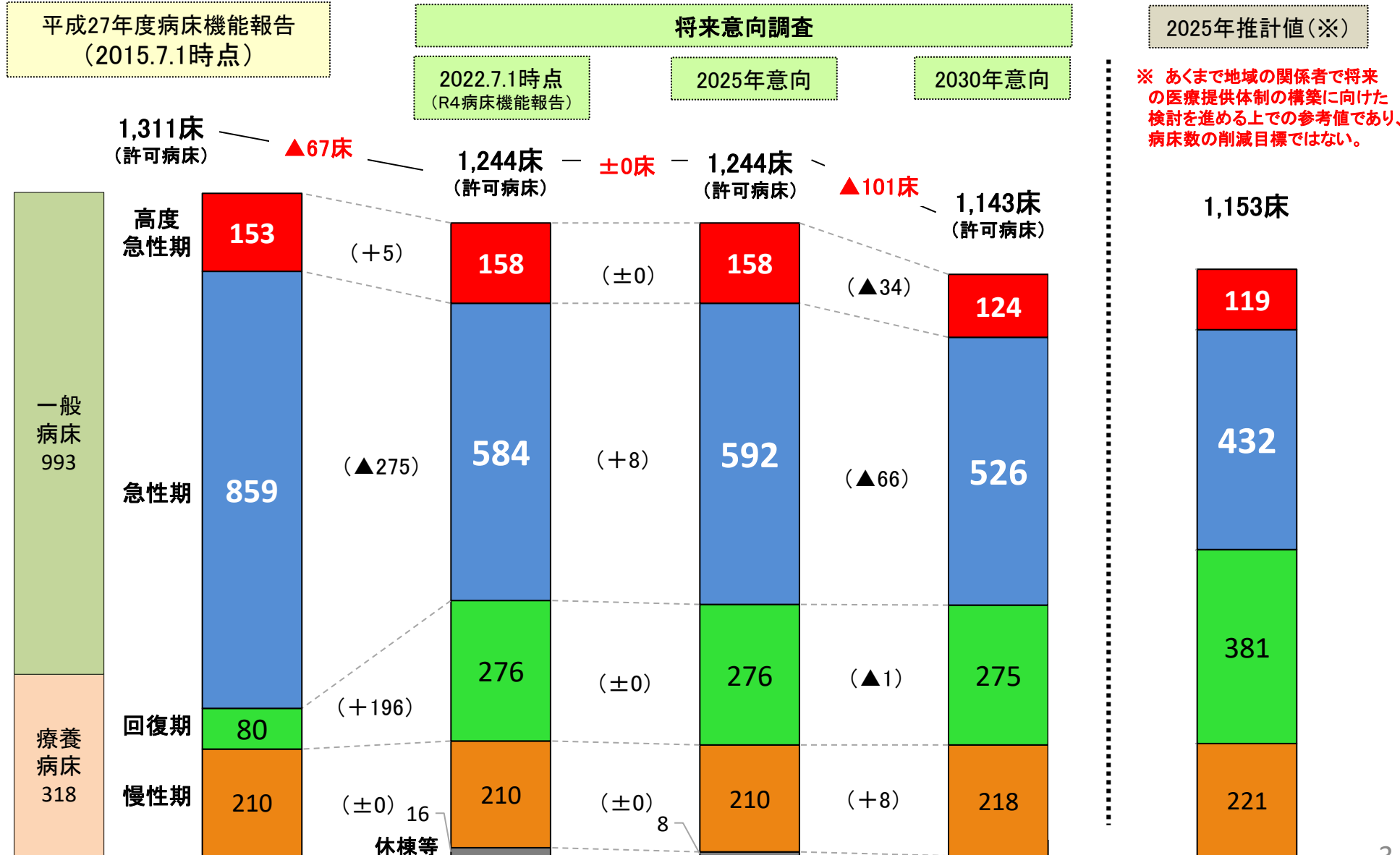
1. 現在担っている役割(※)(令和4年7月1日時点)

2. 2025年・2030年に担う予定の役割(※)の意向

※5疾病、3事業、新型コロナ、在宅など

様式1 調査結果 — 機能別病床数の意向 — (上伊那医療圏)

- 2025年の意向を集計した結果、2022年7月1日時点と比較すると、休棟中の病床8床が急性期機能で再稼働し、総病床数は変わらない見込み。
- 2030年の意向を集計した結果、2025年の意向と比較し、高度急性期・急性期・回復期が減少、慢性期が増加し、総病床数は101床減少する見込み。



※ あくまで地域の関係者で将来の医療提供体制の構築に向けた検討を進める上での参考値であり、病床数の削減目標ではない。

様式1 調査結果 — 機能別病床数の意向 — (上伊那医療圏:医療機関別)

- 2025年までに、上伊那生協病院において、休棟中の病床8床が急性期機能で再稼働される見込み。
- 2025年から2030年までの間には、上伊那生協病院において休棟中の病床8床が慢性期機能で再稼働され、昭和伊南総合病院では、高度急性期34床、急性期66床、回復期1床の病床削減を伴う移転建替えが行われる見込み。

【凡例】 A:2022年7月1日時点の機能別病床数 B:2025年における機能別病床数の意向 C:2030年における機能別病床数の意向

病院名	高度急性期			B-A	C-B	急性期			B-A	C-B	回復期			B-A	C-B	慢性期			B-A	C-B	休棟等			B-A	C-B	介護施設等への転換			B-A	C-B	計			B-A	C-B	
	A	B	C			A	B	C			A	B	C			A	B	C			A	B	C			A	B	C			A	B	C			
伊那中央病院	116	116	116	0	0	238	238	238	0	0	36	36	36	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	390	390	390	0	0
昭和伊南総合病院	42	42	8	0	-34	191	191	125	0	-66	67	67	66	0	-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	300	300	199	0	-101
仁愛病院	0	0	0	0	0	73	73	73	0	0	0	0	0	0	0	94	94	94	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	167	167	167	0	0	
上伊那生協病院	0	0	0	0	0	48	56	56	8	0	56	56	56	0	0	44	44	52	0	8	16	8	0	-8	-8	0	0	0	0	164	164	164	0	0		
町立辰野病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	100	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	100	100	0	0		
田中病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	72	72	72	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	72	72	72	0	0		
病院計	158	158	124	0	-34	550	558	492	8	-66	259	259	258	0	-1	210	210	218	0	8	16	8	0	-8	-8	0	0	0	0	1193	1193	1092	0	-101		

有床診療所名	高度急性期			B-A	C-B	急性期			B-A	C-B	回復期			B-A	C-B	慢性期			B-A	C-B	休棟等			B-A	C-B	介護施設等への転換			B-A	C-B	計			B-A	C-B
	A	B	C			A	B	C			A	B	C			A	B	C			A	B	C			A	B	C							
駒ヶ根高原レディースクリニック	0	0	0	0	0	19	19	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	19	19	0	0	
菜の花マタニティクリニック	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	17	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	17	17	0	0		
斉藤診療所	0	0	0	0	0	15	15	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	15	15	0	0		
有床診療所計	0	0	0	0	0	34	34	34	0	0	17	17	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	51	51	51	0	0		

総計	158	158	124	0	-34	584	592	526	8	-66	276	276	275	0	-1	210	210	218	0	8	16	8	0	-8	-8	0	0	0	0	1244	1244	1143	0	-101
-----------	------------	------------	------------	----------	------------	------------	------------	------------	----------	------------	------------	------------	------------	----------	-----------	------------	------------	------------	----------	----------	-----------	----------	----------	-----------	-----------	----------	----------	----------	----------	-------------	-------------	-------------	----------	-------------

様式1 調査結果 — 今後の圏域における役割の意向と具体的な今後の方針 — (上伊那医療圏)

○ 各医療機関の今後の役割の意向と具体的な今後の方針は以下のとおり。

【凡例：今後の圏域における役割の意向】

- ①：重症の救急患者への対応や手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う医療機関
- ②：救急患者の初期対応や比較的軽症の患者に対する急性期医療を担う医療機関
- ③：在宅や介護施設等で急性増悪した患者（サブアキュート）や、急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者（ポストアキュート）の受入機能を担う地域包括ケアの拠点となる医療機関
- ④：回復期リハビリテーション医療を提供する医療機関
- ⑤：長期にわたり療養が必要な患者（重度の障がい者（児）を含む）に対する入院医療を担う医療機関
- ⑥：特定の診療に特化した役割を担う医療機関（例：産婦人科、精神科等）
- ⑦：かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う医療機関

医療機関名	病診区分	今後の圏域における役割の意向(◎は主たる役割)							具体的な今後の方針
		① 高度・ 専門	② 軽症 急性期	③ 地ケア	④ 回リハ	⑤ 長期 療養	⑥ 特定 診療	⑦ かかり つけ	
伊那中央病院	病院	◎	○		○				・現時点では、担っている機能を継続して維持していく。
昭和伊南総合病院	病院	◎	○	○	○				・上伊那医療圏・伊南地域における高度急性期・一般急性期の需要に応え、回復期までの切れ目ない医療を提供する。 ・二次救急及び一部の三次救急を担う救急医療体制を継続する。 ・地域包括ケアシステムを支え、在宅療養の支援や一時的入院の需要等に応える。 ・新興感染症の感染拡大時や災害時などの地域需要に対応する。
仁愛病院	病院		○	◎		○	○		・近隣の医療機関や医療の供給状況を随時把握し、必要とされている医療を提供できるようしたいと考えている。ただ、そのためにも専門医をいかに確保するかが課題と考えている。病床については上伊那医療圏は今後不足することが予想されるが、要請があれば不足分の病床確保の検討も可能。
上伊那生協病院	病院		○	◎	○	○		○	・これまでの総合診療、医療と介護との密接な連携、在宅医療のとりくみ、リハビリテーションに力を入れつつ、かかりつけ医としての役割や在宅医療における役割を強化していきたい。
町立辰野病院	病院		○	◎				○	・現在力を入れている「地域包括ケア病床」を最大限活用し、医療と介護の連携を強化していきたい。 ・上伊那北部地域の医療を支える病院として貢献するとともに、引続き、軽症～中等症の入院を要する患者への救急医療やレスパイト入院等の受入にも積極的に関与していきたい。
田中病院	病院					◎		○	・長期にわたり療養が必要な患者の受け入れを継続し、今後は在宅医療にも力を入れると共に医療DXを進め、より良い医療サービスを提供できるように努力して行きたい。
駒ヶ根高原レディスクリニック	診療所						◎	○	・有床の産婦人科として、地域での活動を継続するとともに、内科部門での在宅診療(訪問看護・リハビリ含め)の充実を図ってゆく。
菜の花マタニティクリニック	診療所						◎		・これまで同様、地域の出産環境の提供に貢献していく。
斉藤診療所	診療所		○					◎	・かかりつけ医の機能を果たし、医療・介護などの提供に可能な限り維持できるよう、今後も努めたい。

様式1 調査結果 — 各医療機関が抱えている課題 — (上伊那医療圏)

- 上伊那医療圏における各医療機関が抱えている課題は以下のとおり。
- 様々な課題がある中で、共通している課題としては、**継続的な医療従事者(特に医師)の確保、医療従事者の高齢化や負担の増加等**が挙げられる。

医療機関名	病診区分	自院の課題
伊那中央病院	病院	<ul style="list-style-type: none"> ・医療圏としても医療従事者が少ない圏域であり、当院としても確保に苦慮する職種がある。 ・医師の確保については、救急医が特に不足しているほか、いくつかの診療科でも確保しきれていない。今後、医師の働き方改革で定められた要件によっては、さらに不足感が強まることが想定される。 ・地域としての救急医療の対応を進めていくこと。
昭和伊南総合病院	病院	<ul style="list-style-type: none"> ・第一に恒常的な医師不足が挙げられる。通年常時の救急受入れ体制を維持していくためには現状(常勤医師33人)がほぼ下限と考えている。地域住民が身近で受療する選択性や医療の柔軟性を確保するためにも医師確保は中心課題である。 ・第二に社会変化への対応がある。すでに人口減少・高齢化が進み、患者の高齢化が顕著で疾病構造の変化も起きており、今後ますます加速すると思われる。コロナ対応に見るような一時的な医療需要や災害医療も含めて、こうした社会変化に対応しながら公立病院として持続的に運営していくため、人的・物的に最適化と柔軟性・可変性が求められている。 ・人口当たりの医療資源が全国的にも少ない上伊那医療圏にあって、伊南地域で唯一の病院となった今、これまでも増して地域の医療機関様、関係機関様との連携を深め、地域全体で医療需要に応えていけるよう努めていく。
仁愛病院	病院	<ul style="list-style-type: none"> ・外来患者増加と入院受入れ件数の増加に伴い、当院での訪問診療等の在宅医療へ十分な業務の分配が困難になりつつある。 ・当院は在宅医療が困難な患者を受け入れる病院という位置づけで地域に貢献できればと考えている。 ・地域が必要とされる医療を見極め、幅広くかつ専門性の高い医療を提供出来るよう各科の専門医を確保したいと考えている。
上伊那生協病院	病院	<ul style="list-style-type: none"> ・医師の高齢化による後継者確保が課題。
町立辰野病院	病院	<ul style="list-style-type: none"> ・上伊那医療圏は慢性的に医療従事者が少なく、医師以外の医療従事者の確保にも苦慮している。特に当院のように小規模な病院は長年医師の確保が課題であり様々なルートで医師確保に取り組んでいる。現在、県の修学資金貸与者の派遣がありなんとか診療をしているが、毎年継続できるか不透明である。 ・町内の診療所が複数閉院してしまい、当町の医療の多くをを当院で担っているが、コロナワクチン接種や発熱外来等、新型コロナウイルス感染症に関連する医療を当院ですべて背負っているため医療従事者の負担が増大している。
田中病院	病院	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的な医療従事者の確保(特に医師確保)、スタッフの高齢化に伴う世代交代、当直による医師の負担増と働き方改革
駒ヶ根高原レディスクリニック	診療所	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的にも課題となっている少子化の影響を強く受けている。 ・また、医師・看護師・助産師の医療スタッフの雇用確保が難しく、人材紹介会社への派遣料も含め高額となっている。
菜の花マタニティクリニック	診療所	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の出生数の減少、夜間看護職の確保、医師への負担、コロナ陽性者への対応
齊藤診療所	診療所	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者の問題

様式1 調査結果 — 地域(圏域)の課題と将来あるべき姿について — (上伊那医療圏)

- 任意回答でお答えいただいた内容は以下のとおり。
- 地域の課題としては、医療資源の充実、開業医の維持、出産や育児に対する行政の取組 などが挙げられている。
- あるべき姿としては、地域で診療所や病院ごとの医療のすみ分けをして、在宅医療の分担をしっかりと割り当てて協力を求めること、公立3病院の連携を強化しつつ、介護施設や在宅医療との連携や提供できる体制が構築されていること、圏域ごとに出産のできる医療機関が存続していること などが挙げられている。

医療機関名	病診区分	地域(圏域)の課題と将来あるべき姿
伊那中央病院	病院	・医療資源の充実が必要。単独の医療機関では対応困難なことも多く、地域内でより良い仕組みを構築していくことが必要と思われるが、圏域内だけでは対応しかねることもあるので、国や県での仕組み作りなども期待したい。
仁愛病院	病院	・地域包括ケアシステムの構築をすすめるためにも地域の診療所等先生方には在宅医療を積極的に推し進めていただきたい。ただ、今後は地域の高齢者世帯の増加が著しくなる中、開業医の先生方の高齢化も進むことから業務の縮小が予想され、開業医の維持が求められる。限られた医療資源を有効的に活かすためにも、地域で診療所や病院ごとの医療のすみ分けをして、在宅医療の分担をしっかりと割り当てて協力を求めることも必要かと考えます。
町立辰野病院	病院	【課題】 ・上伊那医療圏は南北に長く、当院は北部の医療を担っているが、開業医数も少なく医療資源に乏しい地域である。加速度的に進む高齢化にどう対応していくか、いけるかが課題である。 【将来あるべき姿】 ・公立3病院の連携を強化しつつ、介護施設や在宅医療との連携や提供できる体制が構築されている。
駒ヶ根高原レディスクリニック	診療所	・少子化により年々出産数の減少が顕著であるが、圏域ごとに出産のできる医療機関が存続していくことが重要であると考えている。
菜の花マタニティクリニック	診療所	・出産や育児に対する行政の取り組み

今後の進め方(案)

— 令和5年度における各医療機関の対応方針の協議方法について —

【病院の場合】

- 自院の対応方針が作成でき次第、今後開催される調整会議に出席いただいた上で、自院の対応方針の内容について、説明いただくようお願いいたします。
(調整会議に参画いただいていない病院にも出席(対面orオンライン)をお願いすることといたします。)
- 対応方針の作成状況については、各回の調整会議を開催する前に、保健福祉事務所から照会・確認させていただきます。対応方針の作成が完了している場合には、改めて調整会議への出席・説明を依頼させていただきます。(出席・説明を依頼する調整会議については、各病院の対応方針の作成状況や各回の議題の多寡等を踏まえ、事務局において調整させていただきます。)

【有床診療所の場合】

- 将来意向調査で回答いただいた内容を対応方針として取り扱わせていただき、次回の令和5年度第1回の調整会議において、県から各有床診療所の対応方針を説明し、協議させていただきます。(調整会議への出席をお願いする予定はございません。)
- 調整会議での協議結果は後日共有させていただきますが、継続協議となった場合には、必要に応じて、継続協議の対象となった有床診療所に調整会議への出席を依頼させていただきます。

今後の進め方(案)

— 令和5年度における各医療機関の対応方針の協議方法について —

- 調整会議で説明いただく資料については、以下を想定しております。
- 共通様式については、3月中を目途に、将来意向調査の集計結果(圏域ごと)と合わせて、将来意向調査の対象である病院に送付させていただきます。

【調整会議で説明いただく資料】

① 公立病院の場合

- 「公立病院経営強化プラン」(案)の概要版(※)

※様式は任意とし、2025年における機能別病床数が明記されたもので説明をお願いします。

② 公的医療機関等の場合

- 2025年における対応方針(共通様式)

③ 民間病院の場合

- 2025年における対応方針(共通様式)

本県における今後の地域医療構想の進め方 スケジュール(修正案)

	令和4年度			令和5年度			
	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
圏域別調整会議	第1回	〔必要に応じて開催〕	第2回	〔必要に応じて開催〕	第1回	第2回	第3回
	1. 各医療機関の対応方針の策定や検証・見直し 2. 構想区域全体の2025年における医療提供体制の検証					令和5年度末までに完了	
医療情勢等連絡会	必要に応じて随時開催						
県単位調整会議			第1回				第1回
将来意向調査		実施					

■ 圏域別調整会議の議題(案) ※地域医療構想に関する議題のみ 次期医療計画(案)へのご意見をいただくため開催

【令和4年度第2回】

- 将来意向調査の結果

【令和5年度第1回】

- 各医療機関の対応方針について(病院・有床診)
- 構想区域全体の2025年における医療提供体制の検証について

【令和5年度第2回】

- 各医療機関の対応方針について(病院)
- 構想区域全体の2025年における医療提供体制の検証について

【令和5年度第3回】

- 各医療機関の対応方針について(病院)
- 構想区域全体の2025年における医療提供体制の検証について